

平成 30 年度 第 2 回 明石市地域自立支援協議会
— 議 事 要 旨 —

日 時：平成 30 年 10 月 10 日(水) 午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分
場 所：明石市立勤労福祉会館 2 階 第 4 会議室
出 席 委 員：黒田会長、山下副会長、前田委員、飯村委員、河石委員、瀧口委員
小松委員、板村委員、四方委員、吉田委員、前川委員、渡邊委員
田井委員、坂戸委員、瓜生委員
欠 席 委 員：坂口委員
傍 聴 者：2 名
事 務 局：中田生活支援室長兼障害福祉課長、金共生福祉担当課長、堀計画係長
濱田医療担当係長、幸田主任、永井職員、光畑職員
関 係 部 署：中島総務部長、中原職員担当課長、山田障害者施策担当課長
山野発達支援課長、木股相談支援担当係長、藤涛地域総合支援担当係長
歳森更生支援担当課長、藤田介護保険担当課長、西澤保健指導担当課長
関 係 機 関 等：山崎慎吾くらし部会副部会長
山崎正幸しごと部会長、
飯塚こども部会長、泉こども副部会長
山本課長、橋田課長、後藤主任、松本相談員、柴田相談員、足立相談員
南部相談員

事務局

—開会あいさつ—
—出席の確認—
—資料の確認—

事務局：本日は今年度第 2 回目の会議となる。会議の前半は「明石市第 5 次障害者計画」の策定について、アンケート調査や関係団体ヒアリング調査、昨年度に行った事業所アンケートなどの調査結果のご報告、またそれらの結果から導き出した課題と、次期計画の骨子案について、それぞれご検討いただく。

会議の後半は地域自立支援協議会運営会議から、地域課題についての報告がある。それでは、以降の議事進行について、黒田会長にお願いする。

(1) 「明石市第 5 次障害者計画」策定について

会長：それでは、次第に沿って進めさせていただく。

まず、(1)「明石市第5次障害者計画」策定について、事務局より、関係調査の報告と計画骨子案の説明をお願いします。

事務局：一関係調査の報告について、資料に基づき説明—

会長：今、ご説明いただいたことを踏まえて、ご意見・ご指摘等をいただきたいと思う。いかがか。総括でなくても、細かい部分でも結構である。

—異議なし—

よろしいか。まだご意見がまとまっていない方もいらっしゃると思うので、次に、骨子案の説明をいただいて、トータルに検討したいと思う。

事務局：一計画骨子案について、資料に基づき説明—

会長：それでは、まとめて進める。先ほどご説明いただいた、アンケート調査報告や計画骨子案について、それぞれご意見・ご質問があれば、どなたからでも結構なので、発言をお願いします。

お気づきのことがあれば、ご指摘をしていただきたいと思うが、いかがか。

委員：骨子案の1ページにある「(仮称) インクルーシブ条例」、このインクルーシブという言葉は、けっこう前から使われている言葉ではあるが、何かよくわからない。日本語で言えば「包摂的」だが、これが非常にわかりにくく、それをインクルーシブという言葉に置き換えてもまだわかりにくい。前回に配られた「『(仮称) インクルーシブ条例』の検討について」という文章に、「障害の有無や年齢等に関わらず全ての人が社会参加できる包摂的な社会が求められています」とか、「マイノリティや社会的弱者、子どもからお年寄りまですべての人たちが大切にされる共生社会を目指していきます」ということが書いてある。仮称にはなっているが、市民にとって「インクルーシブ条例」というのはわかりづらいと思う。例えば「明石共に生きる社会条例」とか、何かそういった言い方のほうがより市民にとってはわかりやすいのではないかと思う。言葉の問題だが、条例を作る際にもそういったことを考えて、皆さん色々な合意が必要だが、その辺り一つ参考にさせていただければと思う。

会長：今の委員のご意見、市民にとって理解しやすい、近づきやすい方法を考えていく上で、ネーミングというのは少し大事ではないかということだった。これもご検討いただきたいと思う。他にないか。

事務局：今のご意見について、「インクルーシブ条例」の制定に向けた取り組みに関しては、

今年7月に第1回目の検討会が行われ、心のバリアフリーの部会とユニバーサルデザインのまちづくりの部会という形で、全部で5回にわたって検討会が行われると聞いている。ネーミングについても検討会で議論されると思うので、関心を持って見て行きながら、また必要な場合には、市民の皆さまからも意見が出せるような場もあると思うので、この場もその一つだと思うが、今後ともご理解をお願いしたい。

会長：他にご意見はないか。質問でも結構だ。

委員：障害者計画の事業所アンケートの中にもあるが、色々サービスを行いたくても職員を集められず、なかなか事業展開ができない。障害者計画の中に色々な施策の推進が記載されているが、結局それを進めていく事業所の職員が集まらなければ、進められないと思う。この計画の中に、職員確保、人材育成、啓発の内容がないと、いくら計画を作って良いことが書いてあっても現実的にはかなり厳しい状況に追い込まれるのではと思う。ぜひその辺りを検討していただきたいと思う。

会長：ただ今のご指摘について何か検討をされていることはあるか。もしなければ、当然のこととして、検討していただくことになるが。事務局、いかがか。

事務局：今ご指摘の人材確保と人材養成については、運営会議でも議論になっているところで、何らかの形で盛り込んでいきたいと考えている。ただ、大きな課題であるので、この計画の中でどのように位置づけるのかということも含めて、今後検討を進めていく。関係の皆さんとも議論をしっかりとしながら、進めさせていただければと思っています。

会長：他にいかがか。一人ひとり伺っていると、予定の時間をオーバーしてしまうので、ピックアップをしてお伺いする。特に、人的資源の確保は、明石市だけの問題ではなくて、生活支援を進めていく上で、障害者も高齢者も子どもも、今後ともしっかりと捉えていかなければいけないと思う。その他に何かご意見はないか。

委員：各調査についてはダイジェスト版を通して、今回非常にわかりやすい形で集約していただいている。基本的には課題に対応する施策について、骨子案の第4章に150の施策に組み込んでいくということで、その辺り集約したものを施策にしっかりと反映していただくことと、先ほど委員からのご指摘のあった、人材の確保についてもしっかりと第4章の施策に落とし込んでいただけたらありがたいと思うので、引き続きよろしくをお願いします。

会長：それでは、この議題はここで終わらせていただく。次回以降、素案の検討、パブリックコメントを経て、第5次の計画の全体像をまとめてまいりたいと思う。各委員の方々には、またご協議をお願いしたい。

(2) 明石市地域自立支援協議会運営会議からの地域課題について

会長：本日の議題の2つ目だが、運営会議から、地域課題についての協議に関して、皆さまからご同意をいただくものが一つと、人材の確保に関して運営会議から課題が出されているので、その辺りのご説明をいただきたいと思う。

運営会議事務局：まずご了承をいただきたいことが1点ある。こども部会より、イオンシネマ明石にて啓発のビデオを上映する予定があり、それにつきまして、「明石市地域自立支援協議会こども部会」の名義が必要と考えている。担当から詳しく説明をさせていただき、映像も今からご覧いただきたいと思う。ご検討をお願いしたい。

こども部会：こども部会では「啓発」をテーマに、共生社会、共に生きるということを大きな課題として活動している。その中で、イオンシネマ明石を基本に、映画の前の30秒ほどのCMに障害のある子どもたちの映像を流すことで啓発に繋がりたいと考えている。

まず今回作成した啓発動画を見ていただきたいと思う。この映像は、あおぞら園のこどもたちや、聴覚障害の方、視覚障害の方にご協力をいただいている。

30秒の内容となっており、最後の3秒間は真っ暗なのだが、その真っ暗なシーンのところで、「明石市地域自立支援協議会こども部会」という文字が最後に流れれば非常にありがたいなと思っている。

—動画上映—

こども部会：動画作成の経緯を簡単に説明させていただく。

実は企画者である私自身が障害者に対して「怖い、汚い、気持ち悪い」という気持ちを持っていた。しかしひょんなことから、障害の方と就労のことで関わる仕事に携わるようになり、障害を理解することで、相手の立場にたって考えることができ、行動することができるようになった。私のように理解していない人は沢山いると思うが、理解をすると、マイナスからゼロになったり、マイナスからプラスになったりするのではないかと思う。知らない人に知ってい

ただくことがすごく大事だと思い、今回、動画作成を提案した。

もし駄目だということであれば名義の部分は消させていただくが、何とかご協力をいただければと思っている。

こども部会：私は児童発達支援センターの施設長をしており、地域の方とか、ご両親、祖父母にも障害を理解してもらえずに孤立して子育てをしているという現状の声を聞き、これをできる限りゼロにしたい。障害のある子ども育てるお母さんたちが自信を持って子育てできる明石市にしたい、という思いで活動しており、これからは、「障害理解」がキーワードになってくると思っている。

こども部会では「1万人メッセージ」も啓発活動として行っている。現在1,353人にメッセージいただいている。動画も、ユーチューブで流しており、英語版とスペイン語版、現在は中国語版を作成しながら、活動している。

一般的な啓発活動として福祉のバザーやイベントを行っても、関係の方しか来ず、他の方は素通りするようなイメージを肌で感じている。障害の方をサポートするシンボルマークなどもあるが、やはり一般の方には浸透していないのが現状だと思う。

良いことをしていても、届けないといけない人に届かなければ意味がない。一般の方が多く集まる映画館で、映画の上映の前の30秒の枠で啓発動画を流すことができれば、必ず見ていただける上、映画館という外部から遮断された空間の中で観客に強い印象を残せるのではないかと考えている。

今回、アベンジャーズという映画でさせていただく予定である。本当は全部の会場で啓発動画をCMとして流したかったが、予算の都合で一つに絞ることになった。この映画は来年の4月に上映予定で、前作は明石で、公開1か月間で8,000人来場したと聞いている。大勢の観客が来られるということで、啓発には最適な映画なのではないかと考えている。

先ほどの映像は、三宮で写真家をされている方、BGMはプロの歌手でピアニストの方、撮影協力に、あおぞら園、ゆりかご園、そして明石に住む聴覚視覚障害者の方にご協力いただいた。「明石で福祉の団体が頑張っている」というようなPR活動にもなるのではないかと考えている。

自立支援協議会の方々にご協力をいただけたらと思い、提案させていただいた。名義使用についてご検討願いたい。

会長：30秒の動画について、「明石市地域自立支援協議会こども部会」という名称、名義を入れるかどうか、一つ提案があった。了解いただける方は挙手をお願いします。

—全員挙手—

会長：皆さま方に挙手いただいたので、積極的にご活用いただきたいと思う。勝手な意見になるが、予告映画の時に「映画の盗撮禁止」という妙な小動きをする予告編があり、そういうのが入るとインパクトがあるなど思う。今回は良いが、次回考える時に、クセのあるものがサラッと出てくると面白いかなと思う。

それでは、来年の上映だそうだが、「明石市地域自立支援協議会こども部会」というキャプションも入れていただいて、上映していただいたら、非常に面白いというか、新しい視点での啓発活動かと思う。

それでは引き続き、協議事項の説明をお願いします。

運営会議事務局：一運営会議からの地域課題について、資料に基づき説明一

会長：障害福祉のイメージアップ戦略の提案募集ということで、それぞれの委員のご意見を提案いただきたい。今、思いつかなければ次回までに、それぞれの所属団体でご意見をまとめたり、皆さんの意見を考えておいていただきたいと思う。全部達成できることではないので、一步一步進めていく、障害の方たちの自立支援に向けて啓発ならびに理解を進めていく、そういう一助にしていききたいと思うので、ご理解ご協力をお願いしたい。

一言でも結構なので、ご提案をいただけたらと思う。非常に大きなテーマでもあり、ご発言をいただいて、会としてまとめたいと思う。なお、ご意見に関してはできるだけコンパクトにしていきたい。

委員：明石市民生児童委員協議会の障害福祉専門部会だが、私たちも障害の方々となかなか接する機会がない。接しないと理解できない、そういう部分がいっぱいあると思う。

10月15日に「手をつなぐ育成会」会長に来ていただいて、疑似体験をさせていただく。障害のある方はこういう見え方をする、障害があるともものを掴む時でもこんなに掴みづらいとか、例えば「優しくしてね」「きちんとしてね」と言葉で言ってもなかなか通じない、どのように説明したら良いのかということも勉強できると思う。そうすることで私たちも、もう少し障害の方々の理解ができるのではないかと考えて、次回の部会は楽しみにしている。

委員：精神保健福祉協会の理事をしている。本職は精神科病院のソーシャルワーカーで、部署はグループホームを担当している。まさにこの問題で困っているところで、人材確保の問題が常に目の前にある。県や、明石市も、グループホームをどんどん作ってほしいという方針であり、当法人としても作りたいと思っているが、スタッフ募集として、ハローワークや、有料でチラシを撒いたり、ネット募集するツールを利用して

も、全く応募がない。問い合わせは1、2件あるが、実際に履歴書を送って来られる方は1名もなく本当に困っている。

結局どうやって確保したかという、実際に働いている方の家族や知り合いの方などに声をかけ、なんとか確保している状況。来年も新規立ち上げ予定なのだが、どうやって人材を確保するのか今から不安に思っている。またご協力をお願いしたい。

委員：知的障害のある人たちの支援をしている社会福祉法人明桜会に勤務している。やはり今言われたように、人材確保が問題。

法人ではホームページを作っていて、今までは個人情報保護のことがあって利用者の方はあまり写真に出さずに文書などで伝えたり、写真もできる限り利用者の後ろ姿で掲載していた。だが、やはり利用者さんの顔が映らないと本当の生き生きとした姿は出せないということで、保護者の皆さまにもご理解いただいて、利用者の笑顔が見えるように方針を変えた。ホームページはレイアウト変更にかかっているので、ブログを開設して日々の生活などをどんどんアップしている。利用者の顔が映るようになっただけでかなりインパクトがあり、閲覧者も急増した。

これから取り組んでいきたいことは、今までは利用者を中心に「こんな活動をしている」ということを載せてきたのだが、これからは「職員がこういう思いでやっている」と、職員にスポットを当てて、職員の顔も見えるようなブログにしていこうと考えている。楽しさであるとか、日々の職員の様子をより広く伝えていき、そこから一緒に働く仲間を増やしていきたいと思って今、活動をしている。

委員：明石地区手をつなぐ育成会、基本的には障害者の親なのだが、既にお子さんが亡くなられていたり、成年後見をされていた弁護士の方であったり、会員は色々な立場の方がおられ、どちらかという福祉の制度を利用している立場。福祉を利用する立場としては、職員が心も体も安定して、ゆったりした気持ちで子どもに接してもらわないと、ストレスを抱えたままだと当然言葉も態度も荒くなってしまう。働く人が、福祉の仕事をしていて幸せだったなと感じられるように、できるだけ手厚い待遇をしていただきたい。なかなか若い人が集まらないという状況の中で、その辺りの配慮をしていただきたいと思う。

もう一つは、福祉に関する理解について、135E ネットという明石市障がい者地域生活ケアネットには当事者も含めて100事業所があり、その悩みも共通で、どうやってスタッフを集めたらよいか、福祉に従事する人を集めるにはどのように発信したらよいか、明石市からバックアップをいただけないかということを考えている。実は来年3月24日に福祉フェア（仮称）という名称で、市民広場を利用して、事業所のPRと、福祉に従事したい人と福祉を利用したい人、どちらにも対応できるイベントを企画している。今回のイベントを通じて、何とか皆で福祉に協力していただけるように

進めていけたらと考えている。

委員：現在、ハローワークに勤務している。人材確保については私どもの専門分野である。介護、福祉、医療分野というのは全国的に人手不足となっており、対策を打つようにと本庁のほうから指示を受けているが、なかなか決定的なことはできていない。

皆さんに考えてほしいのは、人材を育成・確保するということになると、それなりの保障は然るべきだと思う。そうでないと、若い人は育たないと思う。今、若い子はどこにいるのかということに我々も苦慮しているところで、なかなか若い子は集まらない。見方を変えていただきたいのは、今、中高年の方が世間に沢山いらっしゃる。40代後半から50代、60代の方、特に50代後半から60代の方は元気である。そういう方々がハローワークの窓口に来て、どんどん就職されている。ワークシェアリングをして、今まで一人でやっていた仕事を二人でやるとか、そういう提案もいいのではないか。地域には元気な高齢者が沢山いらっしゃるので、そこを使わない手はないのではないかと私は思う。

委員：お給料が低すぎるので、イメージだけでは補えないのではないかとと思う。お給料を上げていくことを考えていかないと、やはり難しいのではないかとと思う。どうしてこんなに福祉の方はお給料が低いのか。私も実は知的障害のある子どもがいるのだが、20年以上前は、無償で、養護学校を退職された先生であるとか、そういう方たちを中心に、安い謝礼を出してという形だった。その延長で、最低賃金で、そういう状態なのではないかと思う。もっと職業として確立されて、一般の職業よりもいろいろ難しいところがあると思うので、その辺りをもっと考えていただくよう、よろしく願いしたい。

委員：一般公募で参加している。ここへ来た時に冊子「ひなたぼっこ第2号」があり、拝見して、グループホームの「あいすくり一むの家」が載っていた。新しい施設ができたということは知っていたが、どういう施設か全然わからなかった。この情報誌のように、情報発信をしていただけたら、よくわかると思った。

また、障害者の方に触れ合うことがとても大切だというお話があった。私は地域の子育て広場で小さなお子さんやお母さんと関わったり、幼稚園で読み聞かせをしたりしている。障害のあるお子さんには、幼稚園には支援の先生もいらっしゃるが、健常児との交流がとても大事だと思う。周りの子どもたちはとっても優しい。そういうふうにして、小学校、中学校、高校と過ごして社会に出た時に、同じ仲間として共存できたら良いと思う。

委員：私は学校へ定年まで勤めていた。隣に障害児の学級があり、いつも障害児専門の先

生がいて、障害者への理解が進んできているという印象を受けた。体育大会と一緒に参加したり、学習会の発表も普通学級の子もたちと一緒に参加したりすると、障害児たちの顔がすごくはつらつとしている。今日の話聞いて、もう一度、障害者への理解を深めていきたいという気持ちを改めて持った。

委員：施設でブログを発信されていたり、「ひなたぼっこ」であったり、やはり、福祉事業所自体で情報発信しているところが多いと思うが、この協議会で現状を発信していくことは大事だと思った。利用者や職員の顔などを出せる部分は出して行ったら良いのかなと思う。神戸の「えんぴつの家」という事業所があるが、「えんぴつの家だより」を400号くらい発行されていて、そこに理事長の話なども載っていたり、パン工場で働く人たちと指導する職員さんたちとの面白く、和やかなやり取りが毎号載っていたりする。そういう楽しい所もあるのだなということがわかって、実際に行ったことがなくても、事業所の雰囲気が伝わってきて、良いなと思う。情報発信していくことは良いことだと思う。

委員：人材確保について、そもそも障害者に対する理解が世間一般に余りないように思う。皆さんがおっしゃっているように、世間にアピールする機会がどんどんあつたら、それはそれで良いことだと思う。看護大学、神戸学院大学などの看護師の卵の皆さんに、講演をさせてもらったのだが、学生さんたちに「(福祉の世界は) どうか?」と聞いたら、「やってみたい」「頑張ってみよう」という意見もあつたので、子どもたちと接してもらって理解してもらったら、状況も少しは変わるのではないかと思った。

委員：事業所の賃金が非常に低いと聞くことがある。その辺りをもう少し考えていただき、事業内容も考えていただけたら、もう少し皆さん集まっていただけではないかと思う。楽しく働ける場所というのも大事だと思う。

委員：障害者支援施設博由園に勤務しており、我々も職員の募集に苦慮している。ベースとなる啓蒙も必要だとは思いますが、先日、学生が何人か実習で来られ、話をする機会があつた。社会福祉士を目指す方たちだから福祉のことをよくご存じだろうと、福祉についても勉強している前提で話をしていたのだが、学生たちに「福祉とは何か」と聞くと、答えられなかった。「少し言い換えたなら、しあわせではないの?」と私が言うと、学生からの礼状には、やはりその時の言葉が印象に残つたと記載があつた。

専門に勉強している学生でさえも、なかなか理解していない。それと同じようなことで、例えばユニバーサルデザインという言葉も社会一般にどれだけ理解してもらっているのか。そういうことを理解してもらふことから、ベースとして始めていかなければ

ればならないと、私は思う。

それから福祉の給料について、うちも高くは出せていないが、諸経費が出ているので新卒の人で大体一緒くらいなのではないかという計算をしている。会社によっても色々あるとは思うが、その辺りを、来られる方にはPRしている。それと、ハローワークの方が先ほどおっしゃっていたが、中高年の方は、やはり「福祉はしんどい」と思われるようだ。うちは身体障害者の方が主なので、送迎車の運転手として応募されてくる方はいらっしゃるが、腰を使ってとか、体力的に難しい現場については、なかなか難しいように思う。

委員：社会福祉協議会に勤務しているが、その前は障害の事業所に勤務していた。人材確保について、皆さんの話を伺っていると、障害者の方と接する場面が少ないと思う。精神疾患を持っている方に対して「怖い」や「近づきたい」等のイメージを持たれることも、マスメディアなどでいろいろ情報が飛び交っていて、自然と培われているのかなと思う。

実際に当事者の方と話をしてもらおうと、「本当に精神に疾患があるのか」、「障害のある方の作文を読むと私よりももっとしっかり考えている」と実感する学生もいる。触れ合える機会が大事だと思う。

施設のPRにしても、当事者の顔とか表情をどんどん出していくことは良いと思う。実体験として、別の所で就職フェアを見た時に、当事者が「私の介護をお願いします」と、当事者の方が実際に就職説明会の場において、そのことが、どこかすごくポカポカしていて、そのブースだけは人が集まっていた。当事者自身がどんどん出ていって、当事者と一緒に作っていくということが、これからは必要なのではないかと思う。当事者ともっと関わりを持って行くことによって、理解が生まれ、当事者自身も成長して行ける。そのことが実際に現場にいた時に嬉しかったし、楽しかった。

これからITとか社会構造が変わってくる中で、私は逆に、対人援助というところの価値観というものが、これからより大事になってくると思う。人と人が接していくこと、むしろそこが大事なのだと、それを福祉のアピールポイントとして出していくことによって、IT業界とは違う価値基準を売りにしていくことができる。つながりを作る職業としてのすばらしさ、面白さを、当事者とともに出していくことが、これからの福祉のあり方なのではないかと思う。

また、ハローワークの方がおっしゃっていたが、これから高齢者が増えていく中で、どう巻き込み、取り組んでいくのか。今までとは違う新しい発想で、社会福祉協議会等でも「後見人をどうしていくか」考えているが、発想の転換をもって、高齢の方も障害の方も生きがいや、やりがいを満たすビジョンを出していくことが大事なのではないかと思う。その辺り、専門職の方も交えてアイデアを考えて、逆提言を出していただければありがたいと思った。

会長：まとめることはできないが、先ほどご指摘のあったように、福祉を「しあわせ」という捉え方でもう一度見直さなければならない、そこが一点。それから、障害は誰にでも起こることとして、もう少し障害を持つイメージを土台から変えていかない限り、これまでの考え方ではなかなか福祉や障害につながりにくく、それがそのまま働く人が近づいてくれないということにつながっている。福祉・障害の概念から作り変えて行く、そういう作業がこれからされて行くのだろうと思う。

一つの仕事についても全部やるのか、それとも、一部分だけできたらそれでいいのか。根本的に働くとは何か、福祉とは何かということ、土台から変えていかなければいけない。私は大学で教えていたのだが、これからはむしろ経済学部とか法学部とか他の学部の学生も対象にした方が、はるかに実践になると思う。

熱心なご意見をいただいたので、少しだけ時間をオーバーしている。今日はこの程度でまとめさせていただく。

運営会議事務局：いただいたご意見は運営会議で継続して取り組んでまいりたいと思う。

会長：皆さまには全体会議としてご参加いただいているが、それぞれの興味やご専門に合わせて、3つの部会があるので、できたら各部会に年1回くらい顔を出していただきたい。もちろん報告書や、ホームページを見れば活動内容はわかるのだが、雰囲気であるとか活動の実態などは現場に行ってみないとわからない。私も来年に、できたら部会を覗かせていただきたいと考えている。皆さまも、それぞれ興味のある部会に顔を出していただけたらと、会長からのお願いである。

以上で予定していた議題は終わりとなるが、事務局よりその他の議題があればお願いしたい。

事務局：それでは、関係課からの報告事項ということで、地域総合支援室更生支援担当より報告がある。

更生支援担当：一更生支援について、報告一

事務局：関係課からの報告としましては以上である。

事務局：それでは閉会に向けて3点だけ事務連絡をさせていただく。

1点目は、次回第3回の日程のご案内である。次回は11月21日（水）、時間は本日と同じ14:00、午後2時、場所は市民会館の1階、第1・第2会議室の予定であり、ご出席のほどよろしくお願いしたい。後日お手紙でもご案内する。

2点目、本日の皆さまの報酬については、10月25日(木)に振り込む予定である。
確認をお願いしたい。

最後に、市役所の駐車場をご利用の方で、無料処理がお済みでない方は入り口付近で処理を行うので、事務局まで声掛けいただきたい。

以上をもって閉会とする。

閉会